



第53号

2008年8・9月号

住所：

埼玉県川口市並木
3-4-10-2F

Tel：

048-258-9866

Fax：

048-258-9888

Email：

shintoku9866@gmail.com

Web：

http://163.26.222.22/japan

恩師のお訓し

だれでも一輪の蓮の花を持っています。その一輪の花はどこにありますか。どのようにしてその一輪の花を咲かせるのですか。あなたの愛の心が出たときこそ蓮の花が最もきれいな時です。誰の蓮の花もきれいに咲いて、きれいな蓮の花の世界になることを望みますか。皆の蓮の花が咲いてこの世の中はきれいになります。もしあなたが周りの蓮の花が周りに影響されて汚染されたらきれいになりますか。愛の心をもってこの花をきれいに咲かせる志を持っていますか。これは日常生活の中でやるべきことで本来やることです。

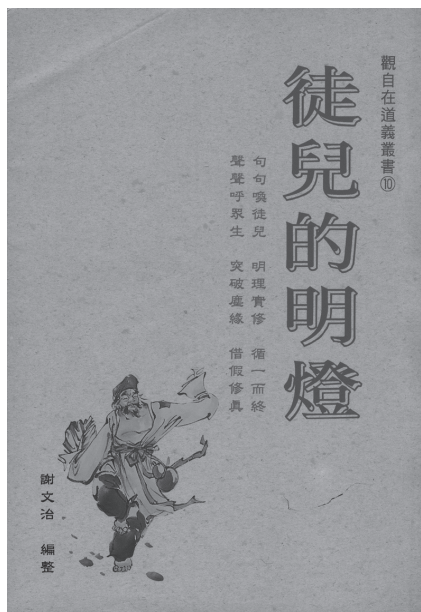
人がこの世界にきたのは、ただ子供を養育して家庭を維持するためだけではありませんよ。もしそれだけだったら私がここで多くを話す必要はありませんよ。

あなたの心は道と合っていますか。体は元気ですか。少しの悩み、楽しみは全て自分の事ですか。他人の悩み事を悩むことはしないですね。人と菩薩の違いはここにありますね。人生の舞台は何十年でしょうか。その日々で、天と地の広さを見習うべきです。自分のことだけを考えていると心は少しづつ狭くなっていきます。道を修めるのは心を修めること即ち心をもっと広

く大きくすることです。たとえ人から害を受けて損していても、許してあげて助けてあげます。

毎日ぼんやりしていませんか。目標を持って学んで実行しなくてはなりません。弟子達は真を持って、天の心をもって、大愛の心さえあればどこへでも行けます。あなた達の道が険しくても師は導く。必ず連れて行ってあげる。心配するのは弟子の歩みが止まること。

弟子の足が二つの船に乗っているとき、一つは法船、一つは凡の船。聖のことに専念しなければ完成することはできません。心に執着が多くなると専念することはできません。一つの事をおこなうには集中して、完成して余裕があれば別のことをおこないます。



八月の予定

八月 二日(土) 講師勉強会(行徳) 九時から
八月 十日(日) 日本語研究班(進徳)

中級・十時から 初級・十三時三十分から

八月十四日(木) 献供礼(旧暦・七月十四日)

八月十七日(日) 華語研究班(進徳)

中級・十時から 初級・十三時三十分から

八月十九日(火) 天然古仏聖誕(旧暦・七月九日)

八月三十日(土) 献供礼(旧暦・七月三十日)

※八月の親子お経班はお休みです。

九月の予定

九月 六日(土) 講師勉強会(行徳) 九時から

九月十三日(土) 献供礼(旧暦・八月十四日)

親子お経班(行徳) 十四時から

九月十四日(日) 天然古仏成道

日本語研究班(行徳)

九月二十一日(日) 華語研究班(行徳)
中級・十時から 初級・十三時三十分から

九月二十七日(土) 中華聖母聖誕(旧暦・八月二十八日)

親子お経班(行徳) 十四時から

九月二十八日(日) 献供礼(旧暦・八月二十九日)

九月二十八日(日) 献供礼(旧暦・八月二十九日)

前人様を偲ぶ会

一、「前人様ご慈悲の言いつけ」より

最近雲林道場で成道した何名かの点伝師の後学とその家族たちが結縁式を申し込んできましたので、一緒に結縁式を行いました。恩師はその五人の点伝師の仏号を告げられました。結局五人の点伝師は皆、ラウム様から大仙という果位を授けられたのです。

その結果を見てここ何年間の様々な結縁訓を思い出しました。成道した点伝師や壇主、講師たちは、生きていた時の天職こそ違いましたが、大仙や天仙という果位を授けられています。大仙になられた人たちが生前に開拓した道務の規模は、必ずしも多くて広いとは限りません。点伝師ばかりでなく、講師や壇主の身分、炊事の担当者さえも大仙になられたというこの事実、誠に人として自分を深く反省し改め、体得したりさせずにはおきません。これは天職が高いか低いかが問題なのではなく、ただ真心で尽くすかどうかをさすからです。

このような結果から一つの事情が見えてきます。それは将来修道辦道の結果次第で果位の大きい小さいが決められるものではないということ、必ずしも道務の規模や導いた人の数で果位の大小が決定しているのではない、ということなのです。

とても重要なことは、誠に修道、辦道して、誠に奉獻したかどうかだけです。また、誠心誠意で慈、悲、喜、捨が多いか少ない



二、不休息菩薩の弟子

六月二十九日に赤羽行徳壇で行われた陳前人を偲ぶ会において莊昇堂点伝師は言われました。

「前人様は二〇〇八年一月六日に帰天され、不休息菩薩の仏号を頂いた。前人様のご存命中私達は、前人様の後輩でした。今私達は不休息菩薩の弟子です。」不休息菩薩は、法華経や維摩経にも出てくる菩薩です。前人様は、もともと不休息菩薩様の生まれ変わりでありましたのです。ですから、その人生はまさに休むことなく常に衆生のために務めてこられたのでした。

前人様の人生は平穩なものではなかった。中国ではとても裕福な家に生まれ、自由のない人生を約束されていた。しかし、二十五歳の時に老前人様方と一緒に道を広げるため台湾に渡った。台湾では言葉も通じず、とても苦労をする。また、街頭で道を説く事を台湾政府は簡単には許さず、ある時は逮捕拘留されることもあった。当時は中国大陸では共産党革命がおこり、その影響で経済的援助が断たれ、家族のもとに帰ることもできなくなっていました。冷静に考えても、絶望の淵をさまよっている様であるが、これを現実として受け止めるには、どれ程の精神力が必要だろうか。それほどまでの困難、試練も、道を伝える信念を揺るがすことはできなかった。自分たちを迫害する人々を恨むことなく、自分も正しいが、彼らも正しいという平等心を持ちつづけ、人々の命を自分の命と思

い続けたことはまさに、菩薩の務めといえる。

その後、道は徐々に広がり、国内外を問わずたくさんの衆生の霊性が救われ、人々の心を正しい方向に導いてきた。

一月二十七日に、前人様の告別式が行われた。前人様をお乗せになったお車が続くりと光慧仏堂を出発する。一般道に出たところでは見たこともないほどの数の人達が沿道で跪いてお見送りしている。当日の告別式を伝えたビデオの中に仏前で線香を捧げている二人の方が映っていた。一人は当時の陳總統、いま一人は馬總統である。

人の性分が菩薩の性と同じであるゆえに、前人様の歩んでこられた道のりは、人としてのお手本であるといえる。

今の私達は老前人様、前人様はじめ当時の前賢方と比べたらとても恵まれている。目前に、困難があったとき、挫折を怖がらないで実践しよう。道を外れずに誠心誠意であれば何事も通じるはずである。私たちの修行は前人様の歩みと比べてみたらそれほど難しいことではないはずである。



▲前人様を偲ぶ会

三宝で修める

川の中にある石は、流れもまれて丸くなつていく。水から上がって空気にさらされていく石は長い長い年月をかけて角が取れていくものである。無重力の空間に漂っている石は、丸くなるのはとても難しい。

私達の世界は川の中の世界に似ている。自分の形が変わっていくことは沢山の衝突、挫折、困難をまさに乗り越えていかななくてはならない。しかし、この世界が一番簡単に自分の形を変えられる世界であることは間違いないことだ。この世界は、安らかな世界とは言い難いかもしれない。いつでも平常な心を保つことはとても難しいことで、他人の一言によつて救われることもあれば、投げ出したい気持ちになることもある。救いの言葉をくださる人を菩薩のようだといい、ひどい一言をくれた人を鬼のようを感じる。一般的にはこのように感じるのではないだろうか。実は、ひどい事をくれた人こそ、ありがたい菩薩の心を持った人だ。彼らがいなかったら、自分を丸くすることは、出来ないからである。彼らを感じるの心で接していくうちに乗り越えることができるのだ。素直な心で受け入れたとき、はじめて自分には何が足りなかったのか、何を直さなければならぬかがわかってくるはずである。もちろん時々は励ましの言葉も頂きたいものである。自分も頂きたい

いだから、人にもあげなくてはならないのは当然なことである。

このように、人は揉まれながら成長していくもので、人として時間を頂いている間、常に成長のチャンスがある。つまり、肉体のあるうちはいつでもチャンスがあり一生成長できるというわけだから、生きていることに感謝しなくてはいけない。空気になつてしまつたら、空気中の石のように丸くなるのは大変なことであり、まして、真空の無極に於いては、無限に時間を費やさなければ丸くなることは難しいかもしれない。

習い事にはお手本が必ずあるように、私達の成長にもお手本があり、その方を儒教では聖人といい、仏教では仏という。仏の心、仏性は円満と言われているように、私達の心丸くすることは本来の仏の心に返ることにはかならない。得道して三宝を頂いて、肉体が減びた後に無極理天に帰れるという保険に入れたのはとてもありがたいことであるが、それで終わりでないことはもちろんで、成長していくことには変わりがない。そのとき、頂いた三宝をお守りのように使えば、楽しく成長ができる。心を落ち着けて、三宝を使う習慣を身につけていけば、不思議と智慧も開発されてくる。

衣食住は生きていく手段であつて目標ではない。名利は目標ではなく、責任の重さを表している。

少しでも世の中に疑問や迷いを感じている人は、「聖人や御仏になる」という人生の方向を常に忘れないで、三つの宝物を使つて歩んでほしい。

般若心経の智慧

三世諸仏

過去現在未来の仏

三世とは無限の時を意味しており、過去現在未来のことである。三世の仏とは、過去に仏となったもの、現在に仏になろうとしているもの、未来に仏になるであろうものをいう。その「もの」とは、われわれ衆生のことである。今までから未来にかけて無限の衆生がいるわけであるが、彼等は皆仏である。無限の数の仏がいちつしやるわけである。

それでは仏とは何か、亡くなつたら仏になるのではない。清浄な魂が全く円満に現れているのが仏であり、迷つていない衆生ともいえる。

よつて、私達がほこりを払うように迷いを払いのけ清浄な魂に戻る為にこの世界があることがわかる。

ここではつきりと般若心経をと念えるときに「三世諸仏」と呼びかけられて、目が覚める思いがする。

得道式・大阪

五月二十六日、新宿駅午後十一時五十分発の夜行バスで大阪に向かいました。荘点伝師、黄講師、鄧さんと後学の四名は翌日の午前六時に大阪に到着しました。これは大阪に住んでいる母の友人が得道するためでした。初めはとても遠いので無理かと思つていましたが、「日本の状況はあまり分らないから、私のことは気にしないであなた達で決めていいよ。」という点伝師のご慈悲で実現することができました。しかし、時間と交通費それに臨時天壇の仏具も持つていかななくてはならないことを考えますと、一人のために遠方に向かうということはとても申し訳ないことです。

得道者は六十歳の女性です。「経済的の余裕もないし悩む事がたくさんあるから、今は三宝をもらふ余裕はない。」と断つて拒んでいましたが、「こういう時こそ三宝は必要ですよ。」と話すたびに勧めにに応じてくれました。電話以外、直接会うのは三十年ぶりのことでした。得道式は滞りなく終了しました。得道者はとても喜んで私の手を握つてくれました。「遠いところを申し訳ない。申し訳ない。必ず御礼をしますから」と言う。

「お礼はいらないから、三宝をしつかり覚えてください」と点伝師がおっしゃいました。私は大変感激いたしました。



▲大阪の得道式

義診側記

ここ数年七月には台湾から義診団が進徳壇に来ることは恒例となりました。

今回は胡医師夫妻、鄧講師、廖講師の四人が来て下さいました。胡医師は台湾漢方治療院の院長で奥様は薬剤師で日本は初めてでした。

胡医師の診察は脈診と舌を見て問診してから漢方薬を処方します。必要な方は鍼で治療します。薬を飲んだ後、日常生活の注意点、食生活、運動から心のケアまで、とても穏やかな口調で優しくご指導していただきました。患者さんは治療後とても穏やかな表情で、癒されたような感じでした。鄧講師、廖講師も大変お忙しいところ、ボランティアとして応援に来ていただいたほんとうにありがとうございます。

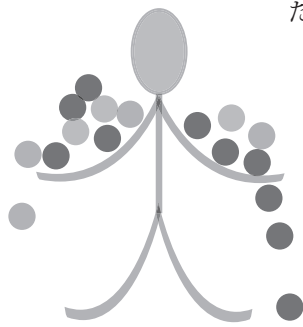
七月担当のC組の皆様、仏壇にお住まいの皆様お疲れ様でした。



廖講師の三宝の説明より

ここまでこれたことは、皆さんは簡単だったと思っておられるかもしれませんが。

世の中のほとんどの神社仏閣では道を得ることはできません。あるところでは座禅を行い、あるところでは一心不乱にお念仏をとなえます。社会から離れて自性を探す修行をする方もいるでしょう。私たちは過去にこのような修行をかさね、また自ら立てた功德とご先祖様の功德のおかげで得道できたのです。ここまでくるのは簡単なことではありませんでした。



私たちは生まれてからたくさんのおもちゃを自分のものと思ってきました。抱えきれないほどの荷物を今も増やしています。実はこれらこそ私たちの苦しみにほかなりません。身軽で自由になるには、これ以上荷物を増やさず、降ろしていけばよいでしょう。

目に見える荷(苦)を取り除くには知識が必要です。見えない荷(無明)を取り除くには智慧が必要です。智慧は智慧の目(玄関教)で見る必要があります。

◎長年文書組で活躍されてきた張姐志慧が帰国されました。皆様へのメッセージをお預かりしましたので、この場をお借りしてご紹介いたします。

進徳前賢各位
十数年間、間各位前賢には大変お世話になりました。

一生の財産であり貴重な思い出をほんとうに有難うございました。皆さまのお蔭様で今日の私の成長があります。(成長とは言え、緩やか過ぎる成長)振りかえって見ると、仏学を知らない学生が少し仏学が解って社会人となりましたが、この過程で迷って失った時もありました。そんな私を前賢がこの暖かい大家庭に連れ戻して下さいました。

長い間仙佛が弟子にくれた愛情に感謝します。日本の生活と学習で弟子が平安無事、順調に過ごせ、多くの難関を乗り越えて、また道は真であり、理は真であり、天命も真である事がよくわかりました。

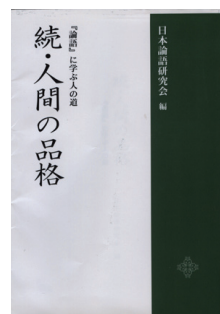
感慨が深く、感想も多すぎて、文字では表わしにくいです。密かに思うのは最も良い表現は行動です。最も良い報は行動です。最後になります。各位前賢、皆、聖凡如意になりますよう心からお祈りします。

二〇〇八年六月二十日 後学 智慧より



良書紹介

続・人間の品格 日本論語研究会編
内外出版



人間の品格の続編である本書は、日本論語研究会代表幹事田村重信氏、同幹事村木春彦氏が、中心となって運営している日本論語研究会において現在活躍中の方々が論語を語ったものです。

とても読みやすく、面白い内容であるばかりか、「日本人として、人間としてこのように生きなければならぬ。」と深く感じさせられる部分が随所に出ています。是非読んでいただきたいと思っております。ここでご紹介いたします。

読まれるときは、ひとりでも多くの方に「日本人に生まれて良かった。」「人間はかくあるべきだ」ということを分かってもらうために、特に電車の中など、人目の付くところで読まれるときには、カバーなど掛けずに「続・人間の品格」という題名が見えるように読んで宣伝していただきたいと思っております。